

こども園関係者評価委員会 会議録

日時 令和8年2月26日(水) 午後1時半～

教育保育の取り組みについて ※資料参照

評価委員と園との意見交換

① 保護者アンケートについて

- ・園では、我が子を真ん中において見てくれているというアンケート結果だと思う。子どもの感動したことやいつもと違う様子を記録にとって伝えていく必要があるが、園児全員の記録を取ることは難しいと思う。(評議委員)
- ・いつもと違う園児の様子に敏感になったり、掃除など園の環境についても同様に気づける先生になってほしいと思う。(こども園)
- ・保護者自身がしんどさを抱えていたりすることもあるので、その思いに気付いて声をかけるなど心掛けている。親のバックグラウンドを気にしながら気付き合えるよう指導しています。(こども園)
- ・幼児期の表現できないところを保育教諭がしっかりコミュニケーションをとりながら関わっていくことが子どもの育ちの中で大切なおところだと思います。(こども園)
- ・保護者アンケートでは、C評価が少なく、素晴らしい結果だと思う。園の取り組みを学校でも取り入れて、いいところをたくさん伝えていきたい。(小学校)
- ・お迎えの時に担任から園での様子を聞くことができると安心する。担任とコミュニケーションがとれると園への評価もよくなるのではないかと感じます。(保護者)

② 園の取り組みについて

5歳児が光と影に興味を持ち、わくわくしながらくり返し作っては試して遊ぶ姿や、3歳児が豆に興味を持ち、菜園活動やクッキングをしたり、収穫物を遊びに取り入れて楽しむ中で、保育教諭が「やってみたい」という子どもの思いや子どもが関心を持ったことを受け止めて、子どもたちと一緒にわくわくしながら計画したり、保育教諭自身が楽しみながら保育する姿が見られる。科学する心を育てて6年経過するが、様々なことを“知る”ことよりも“感じる”“遊びながら考える”ことが重要ではないかと感じている。また、0.1歳児では、子どもたちが探索して遊ぶ中で、一人ひとりの思いを受け止めたり、子どもの思いを言葉で返しながらかかわっている。保育教諭が楽しみながら環境を整えたり、丁寧に声をかけることで、じっくりくり返し保育している。

- ・子どもに視点をあてて、「深い学び」よりも「わくわく感、感動」を大切に、触れる、なめる…など五感を感じさせることが「なぜ」につながるという園の考えや役割がしっかりしている。(評議委員)
- ・園では、自分がやりたいと思うことができている。この思いを受けて、小学校でも先生がわくわくしながら熱意を子どもたちに伝えていきたい。(小学校)
- ・先日の保育参観ですごろくを自由に楽しんでおり、グループごとに発表する姿に感動しました。保護者も子どもと一緒に楽しい時間を過ごせました。(保護者)
- ・子どもは、園でわくわくした気持ちをそのまま家に帰って伝えてくれます。普段の生活面においても、親が教えなくても園で教えてもらっていると感じます。(保護者)
- ・3歳児が興味を持った豆類ですが、現在、園の給食で提供できない食材になっています。自分たちで育てた野菜をどのように取り入れたら子どもたちと一緒にクッキングを楽しむことができるか、保育教諭が栄養士に相談して考えた結果、収穫した小豆を使って子どもたちと一緒に“さつまいもぜんざい”を作りました。食材そのものの味を知ってほしいという思いもあり、子どもたちの中には好みもある様子でしたが、保育教諭自身も試行錯誤を重ねていたため、美味しく出来上がったことをとても喜んでいました。猛暑で小豆が育たず諦めかけていましたが、見事小豆を収穫し、楽しいクッキングまで繋がることができ、子どもたちも保育教諭もとてもいい経験になったと感じています。その後も“あんこ”を使ってどら焼きを作るなど、子どもたちと一緒にクッキングを楽しみ、大喜びの子どもたちでした。(こども園)

次回 令和8年6月頃予定